

2026年 3月 1日

退職教職員協議会双葉支部会員のみなさま

福島県退職教職員協議会
双葉支部 事務局

退教協双葉支部「退教協ニュースNo.423号」 の送付にあたって

今年も「3月11日」を迎えます。これまで、震災から5年後、10年後のたびに「節目」という表現が使われました。今年も「節目の15年」と言われるのでしょうか。私たちにとって、この「15年」とは何か「節目」と言えるような年なのでしょうか。私たちにとっての「節目」は、この15年間に、それぞれのタイミングでそれぞれの環境の中で迎えてきたと思います。単なる「年数」で「節目」とくくられることに違和感を持つ方は多いのではないのでしょうか。私たちの思いとは逆に、事故を起こした東電が柏崎刈羽原発を再稼働させることこそが、いわゆる「原子カムラ」と称される原発推進派にとっての15年を「節目」にしたいのだと思わざるを得ません。このような「原発事故をなかったことにする」という動きに、「反対」の声を強めていきましょう。

巨大与党 誕生!

「大儀なき解散」と批判されながら突入した衆議院選挙は、与党、というより自民党の圧勝となりました。憲法改正（改悪）、防衛費増強、・・・など、国論を二分するような政策を避け、「高市総理の信任」というフレーズと、ほとんどの党が唱えている食料品に対する「消費税減税」に触れるだけで、その他についてはほとんど議論がありませんでした。さらには、何億円もの資金を投入して、ユーチューブなどのSNSでの喧伝による選挙民のイメージ操作についても問題点が指摘されているところです。たしかに野党の動きにも非難されるべきものはあります。しかし、私たち高齢者、そして後輩である現職の教職員の「組合」が連帯できる政党を守ることは大事なことです。「脱原発」「護憲」「平和」「人権」をまもっていきましょう。

「15年目の証言」募集 「原発のない福島を！県民大集会」より



(例) 「事故当時を振り返る証言」「震災・原発事故時の大変な思いをした経験談」「事故後の生活の困難さや不安の証言」「原発事故からこれまでの避難・復旧にかかる体験」「仕事にかかわる様々な困難さや苦勞の証言」「未来への展望・希望」など

私たちにとっての15年は「節目」とは言えないと書きましたが、「県民大集会」の実行委員会では「区切り」としての「思い」「振り返り」の提供を呼びかけています。上の(例)をお読みいただき、提供いただける場合には以下の方法でお願いいたします。

【実行委員会へ直接】 福島県平和フォーラム FAX 024-22-5580

【退教協双葉支部経由】 いつもの連絡先 (下記)

いただいた「証言」は、個人が特定されないよう配慮しながらホームページに掲載されるそうです。また、集会当日の「パネルディスカッション」などでも引用することもあるそうです。避難者である私たちの声、思いを届けましょう。

原稿をお待ち
しています



近況報告、または昔の思い出、さらには現職時代の写真など、提供をよろしくお願ひします。短歌や俳句なども大歓迎です。メモ的なものでもどうぞ。

○ 住所等の変更及び会報の原稿は、下記の連絡先までお願いいたします。

○ 連絡先 (事務局長) 柴口正武 宅

〒976-0036 相馬市馬場野字寺内175-5

※ 電話は 090-2604-8941

※ ファックスは 024-522-7751

(弘済会福島支部/柴口勤務先)

※ 電子メールは shibaguchi0211@gmail.com

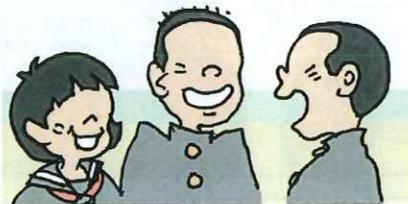


退教協 ニュース

同級会「山なみ会」

いわき市（大熊町）杉本征男

昨年（令和6年）（※本原稿は昨年いただいたものです）の10月、富岡中学校時代の同級会「山なみ会」を開催しました。令和元年に同級生の一人が経営する北海道支笏湖畔の旅館で開催して以来のことでした。



昭和33年春、中学校を卒業して約70年。これまで20回ぐらいは開催しているでしょうか。厄払い、還暦、古希の祝いなど。時には



小学校からの全恩師の先生方をお招きしての開催

など、人生の折り折りに回を重ねてきました。開催場所も地元富岡町をは



じめ、広野町、浪江町、いわき市、郡山市、福島市、水戸市、北海道等様々。特に北海道だけでも3回も開催しています。今回また久しぶりに「山なみ会」を開こうとの声はあちこちから出ていたのですが、自身の年齢の事や体調不良、さては配偶者の介護、そしてあの東電の事故に加えてコロナ禍のこともあり、音頭をとる人がなく困っているうちに、何のはずみかその役が私にまわってきてしまいました。開催場所についても、やはり故郷・富岡町の様子や母校（富岡一中）、そして事ある度に登った公園に行き遥かに太平洋を眺めたいとの希望がありましたが、母校は既に解体され、公園にも自由に行けず、人の住んでいない町中を案内する訳にもいかず、いわき市内に居住する数人が幹事役となり、湯本温泉で一泊する事になりました。個人の都合で参加出来ない人もありましたが、それでも23人の仲間が集まり、昔に戻っては夜遅くまで会





話も弾みました。そして、翌日は希望者による三崎公園や魚市場を巡りそれぞれ帰途につきました。

「山なみ会」は今回をもって解散し、今後は有志により開催することと決め、最後に私が趣味で作った木通（あけび）の蔓細工を差し上げ大変喜ばれました。楽しい楽しい同級会でした。

同級会



(事務局より)

杉本さんの同級会の原稿から、私が幹事となって震災前まで行なっていた高校の同級会のことを思い出しました。それをネタにした四コマ漫画もかきました。震災1年後の同級会を最後に、開催できていません。原発災害は、「同窓」という絆も壊したことをあらためて痛感します。次回は、高野正美さんの「ああ、懐かしき 双葉高等学校硬式野球部」(その4)をお送りいたします。

A型? B型? 何型?

by Monster 松

